

◎ バイオディーゼル燃料取組実態等調査の結果概要 (平成28度実績)

* 調査対象事業体

- ・バイオディーゼル燃料原料の回収・購入、バイオディーゼル燃料の製造、利用に取り組んでいる全国バイオディーゼル燃料利用推進協議会会員及び会員の傘下団体
- ・バイオディーゼル燃料施策・事業に取り組んでいる市区町村
- ・その他バイオディーゼルに取り組んでいる事業者等

* 調査対象期間

- ・平成28年4月1日～平成29年3月31日における実績
(調査時期:平成29年8月～平成30年3月)

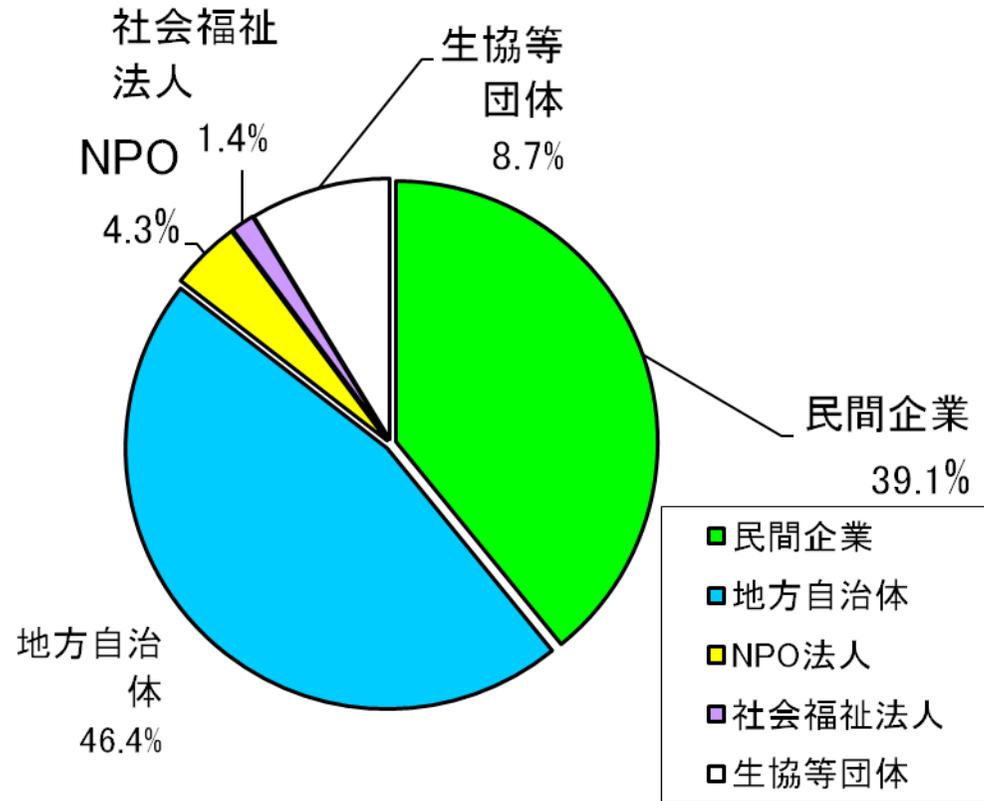
* 調査実施者

- ・全国バイオディーゼル燃料利用推進協議会

バイオディーゼル燃料の取組主体の組織

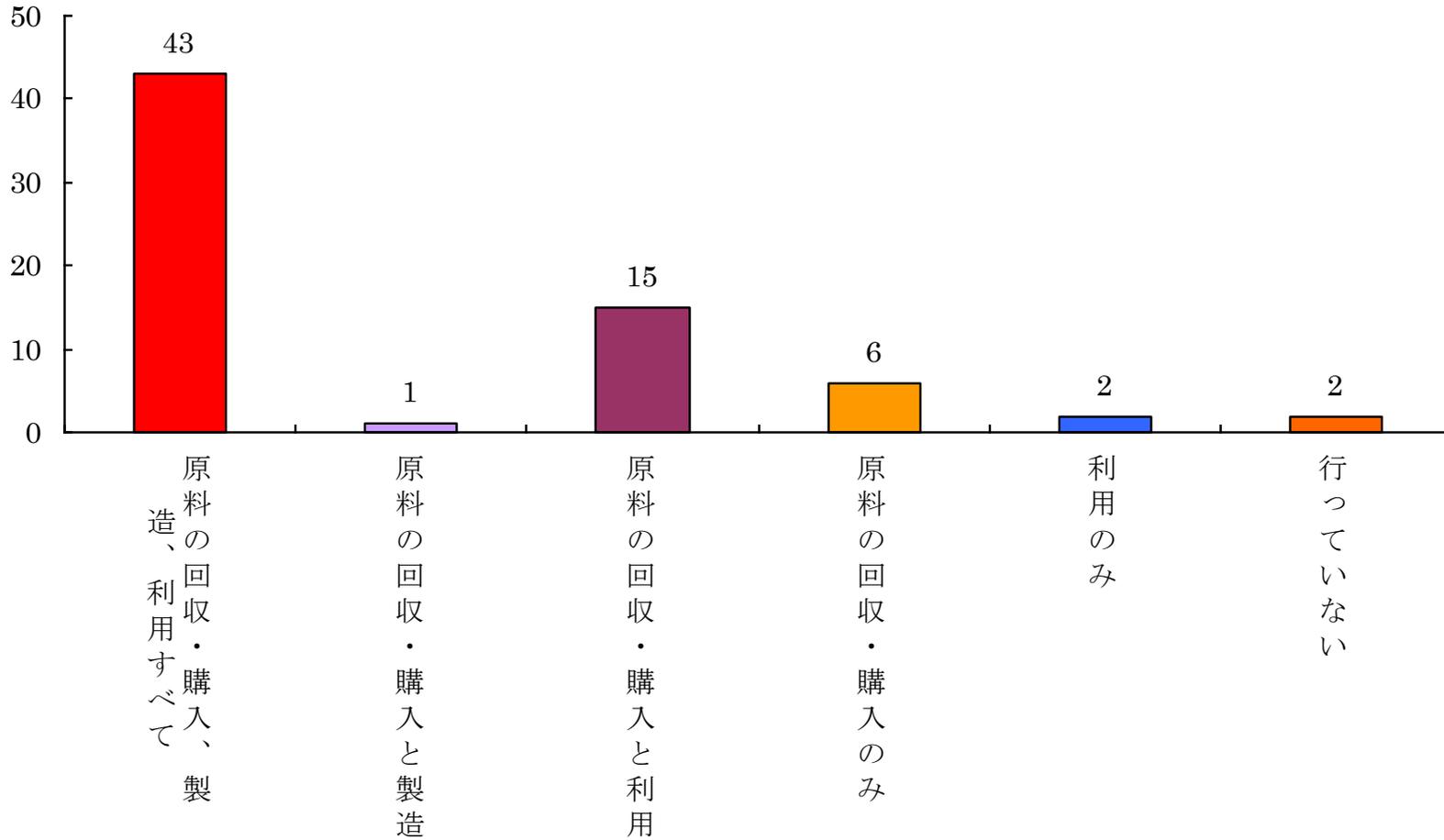
6 4 事業者から回答があった。

組織	事業者数	割合(%)
①NPO法人	3	4.3
②民間企業	27	39.1
③地方自治体	32	46.4
④社会福祉法人	1	1.4
⑤生協等団体	6	8.7
合計	69	100.0



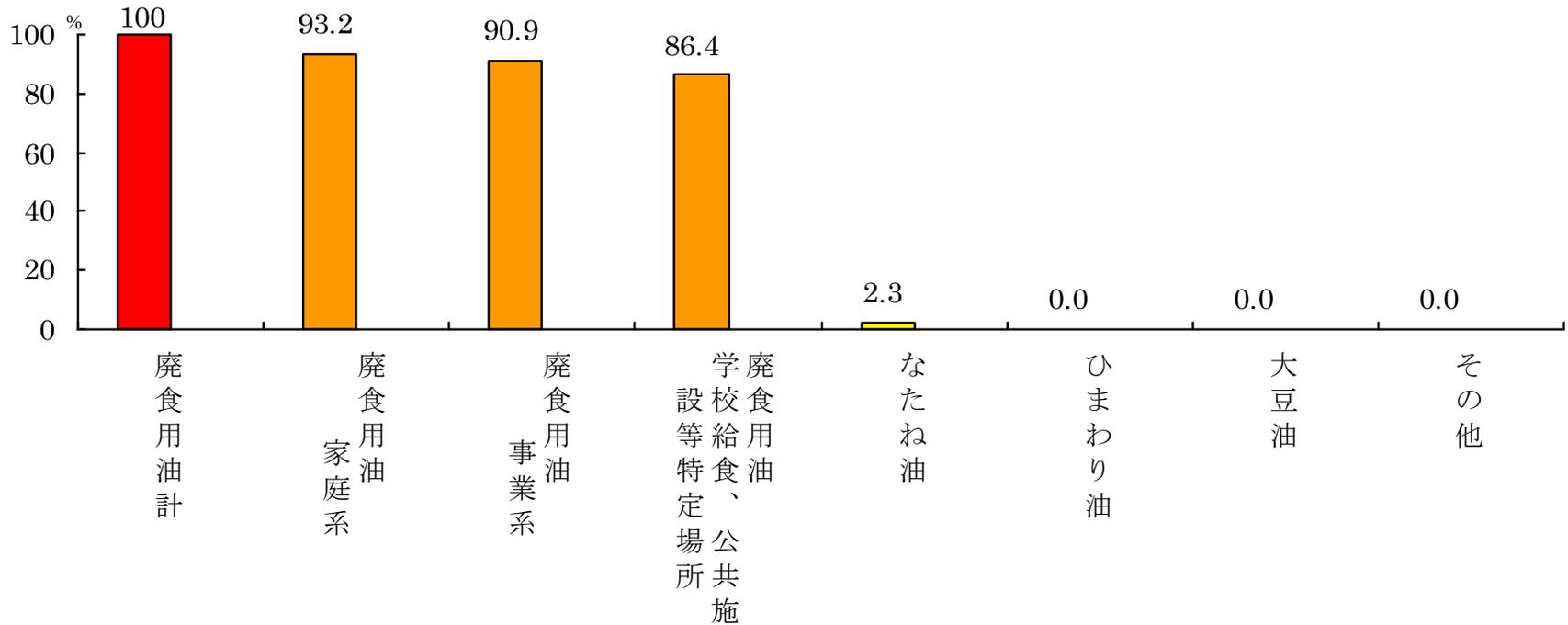
取組形態

(事業者数)



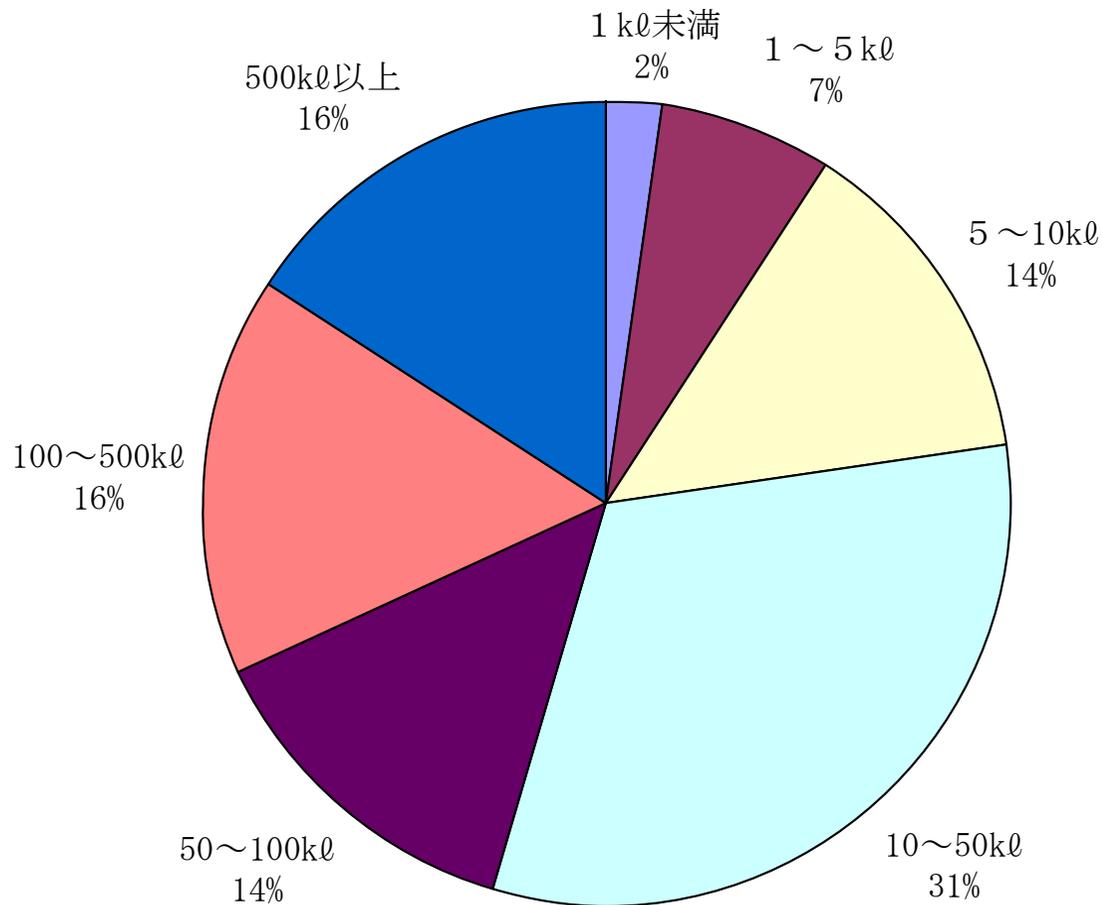
バイオディーゼル燃料原料の種類

燃料製造者(44事業者)の全てが「廃食用油」を利用している。
前年度から原料調達先に大きな変動はみられないが、家庭系や公共施設からの回収回答数が増えている。



バイオディーゼル燃料製造量の規模(年間)

1事業者あたりの製造量の規模としては、年間10～50kℓが多い。



製造量と製造コスト

①年間製造量：13,902kℓ(該当事業者44/平均316kℓ)

・全体的に、稼働日数が減少し、回答した事業者合計では製造量も減少した。(昨年回答集計：15,391kℓ)

*なお、事業者の燃料製造稼働日数は、平均105日であった。

②製造率：87.1%(回答事業者24の相加平均)

・投入原料から製造したバイオディーゼル燃料数量の割合

③製造コスト：122.6円/ℓ(回答事業者17の相加平均)

・回答のうち人件費が高額の事象があり、協議会として推定(概算水準)すると約104円/ℓが計算される。

車両等の種類別利用割合

◎ 60事業者から利用していると回答があった。（回答者数は前年同数）

・トラックやごみ収集車利用の実数回答が増えたが、車両以外の「発電機」や「建設現場」を含む「重機」（含：フォークリフト）の利用も着実に増加しているようである。

・今回の台数はB 1 0 0利用のみを集計しているが、軽油混合（B 5）利用の回答も確実に増加している。台数は正確に把握できる回答が得られず、台数害として「*」印を入れている。

用途	ごみ収集車	バス	スクールバス	公用車	トラック	乗用車	農林機械等	建設現場	発電機	熱源	その他(特殊自動車等)
台数	276 *	32 *	1 *	32 *	413 *	22 *	25 *	31 *	19	15 *	65 *
事業者数	13	10	1	9	20	9	9	5	9	9	16
数量未回答事業者	4	2	2	1	6	2	3	5	4	4	5

協議会活動に対する要望(47者から複数回答)

- ・車両以外の用途拡大の指針
- ・軽油引取税の見直し
- ・バイオディーゼル燃料に関する情報提供

などを挙げる事業者が多く、特に「車両以外の用途拡大の指針」の声が多くなる傾向が見える。

